

小規模園での保育を通して、多様な友達と一緒に遊ぶ快さを感じる幼児を育む —「全体活動」と「思い思いの遊び」との相互作用に着目して—

特別研修員 幼児教育 大野 淑子(幼稚園教諭)

【幼児の実態】(2年保育4歳児)

小規模園のため、一学級の人数が少ない。その中でも、限定的・固定的な関係が継続的に見られる。多様な同年代の幼児同士で遊ぶ経験が不足している。

【教師の願い】

5歳児を含めた幼児と関わる中で、自分の思いや考えを出したり、友達の思いや考えを聞いたりして、友達との関わりを広げたり、深めたりしてほしい。

運動会で行ったダンスや競技ができる状況づくりをする



頑張って!

「運動会」という共通体験を経て、自分たちで集団での遊びを始めたり、友達を遊びに誘ったりすることにつながった。

5歳児と一緒に、給食を食べる機会を設ける



「一緒に座る友達は誰かな?」と楽しみにしながら、席を決め、多様な友達と会話を楽しんで食べることにつながった。

学級全体でボールを使った遊びを共通体験する時間を設ける

ほくが考えたんだよ!



遊びの提案だけでなく、幼児の考えた工夫を全体で紹介すると、その後、「思い思いの遊び」の中で、自分で試したり、友達と声を合わせて遊んだりする姿につながった。

幼児が共通体験する意図的・計画的な「全体活動」

手立て1

相互作用

手立て2

「思い思いの遊び」の中で捉えた「ねらい」に向かう経験に関する要素を全体で共有

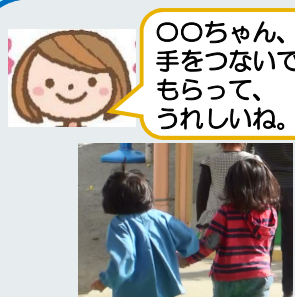
幼児の主体的な遊びを教師が学級全体で楽しめるような視点で見取り、「全体活動」へつなげる



先生、宝はどこだ?

二人の幼児は遊び用具を宝に見立て、教師に見付けてもらうことを楽しんだ。教師はこの遊びを学級全体で楽しめる遊びとして捉え、「全体活動」として行った。その後は、「思い思いの遊び」の中で、複数の幼児が誘い合って遊び始める姿につながった。

幼児が友達を思う言葉を掛けたときに、教師が言葉を掛けられた幼児の気持ちを代弁する



〇〇ちゃん、手をつないでもらって、うれしいね。

友達からの言葉を受けた幼児に対して、「助かるね」「よかったね」などと伝え、間接的に言葉掛けした幼児を認めた。また、学級全体でこのような場面を振り返り、全体で共有した。

成果

今まで関わりの少なかった友達と遊ぶことが増えたり、誘い合って集団での遊びを展開しようとしたりする姿が多く見られるようになった。また、けんかや友達同士での意見の食い違いがあっても、教師の援助を受けつつ、幼児同士で話し合ったり折り合いを付けたりして、再び一緒に遊び出す姿が見られるようになった。さらに、友達を思いやる言葉や行動も増えてきた。このような姿は、幼児が友達と一緒に遊ぶ快さを感じてきている姿と捉えられる。

課題

小規模園において集団での遊びを楽しむためには、園全体での取組が必要になってくる。しかし、4歳児、5歳児それぞれの発達段階や経験させたいことを考慮することが重要であることに実践を通して気付いた。今後は、更に教職員の連携を密にすることが必要である。